

長野美術専門学校
平成 30 年度事業報告書

学校法人クリエイティブ A

1 法人の概要

(1)設置する学校

学校名	長野美術専門学校				
設置者	学校法人クリエイティブA				
郵便番号	380-0935	所在地	長野県長野市中御所1丁目10番10号		
電話番号	026-227-3229	FAX番号	026-227-3235		

(2)設置する課程・学科・修業年限

課程	学科 (単位制)	修業 年限	卒業に必要な単 位数及び時間数		称号
			単位数	時間数	
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科2年制	2年	62	1700	専門士
文化教養専門課程	ビジュアルデザイン科3年制	3年	93	2550	専門士
	ビジュアルアート科1年制	1年	31	850	
	ビジュアルアート科2年制	2年	62	1700	専門士
	研究科	2年	62	1700	専門士

(3)当該学校・学科等の入学定員、収容定員、入学者数、在籍者数

課程	学科(単位制)	定員	入学状況			4月 開始時
			入学 定員	入学志 願者数	入学者 数	
文化教養専門課程(職業 実践専門課程)	ビジュアルデザイン科2年制	120	60	32	31	68
文化教養専門課程	ビジュアルデザイン科3年制	60	20	0	0	1
	ビジュアルアート科1年制	5	5	2	1	1
	ビジュアルアート科2年制	40	20	14	14	23
	研究科	20	10	0	0	1
合計		245	115	48	46	94

(単位:人)

(4)役員・評議員・教職員の概要

1) 役員 の概要

定数・人数	区分	職名	任期	氏名
理事 定数6人	第1号	理事長	平成27年4月1日～ 平成31年3月31日	小林 勝彦
	第2号	理事		村山 正俊
	第3号	理事		田中 勝之
	第3号	理事		松田 光平
	第3号	理事		伊東 工
	第3号	理事		増澤 珠美
監事 定数2人		監事	平成27年4月1日～ 平成31年3月31日	岡田智津子
		監事		瀬下 良幸
評議員 定数13人	第3号	評議員	平成27年4月1日～ 平成31年3月31日	村山 正俊
	第3号	評議員		戸谷 英俊
	第3号	評議員		中山 長
	第3号	評議員		石黒ちとせ
	第3号	評議員		西村 啓大
	第3号	評議員		霜方 和弘
	第2号	評議員		酒井 宏
	第2号	評議員		西澤 和博
	第2号	評議員		富澤 潤
	第2号	評議員		今井まど香
	第1号	評議員		寺島 克己
	第1号	評議員		大橋佳世子
	第1号	評議員		塚田 佳子
	顧問			顧問
		顧問	村田 清人	

2) 教職員の概要

職名	本務・兼務の別	勤務体制	合計(人)
校長	本務	常勤	1
教員	本務	常勤	8
講師	兼務	非常勤	18
連携企業派遣講師	兼務	非常勤	3
職員	本務	常勤	1

3) 理事会・評議員会の開催状況

①平成30年度理事会の開催状況は以下のとおりです。

- 5月19日 定例理事会
- 12月22日 臨時理事会
- 3月23日 定例理事会

②平成30年度評議員会の開催状況は以下のとおりです。

- 5月19日 定例評議員会
- 12月8日 臨時評議員会
- 3月23日 定例評議員会

(5)理念・教育目標

1) 教育目的

創造性の育み

本校の扱う専門教育の根本、創造性の育みを教育目的とする。

2) 教育方針

主体性の涵養

創造性の育みの教育目的から、学習課題などその活動目的に対しての行動は、個人の自由を重んじ主体性を涵養する。

キャリア形成段階を意識した学習

本校の教育課程における専門性の学びには、同時にキャリア形成の働きを求め、基礎を習う段階（ベーシックステージ）、自己の可能性を探る段階（パーソナルステージ）、専門性を社会に向けて発動する段階（プロフェッショナルステージ）の3段階を意識してキャリアを積んで行けるよう学習を行います。（資料1参照）

3) 学科方針

ビジュアルデザイン科〔VD科〕＜2年制／3年制＞

視覚的なデザインワークを学ぶ

人間生活全般に渡る物事を、視覚情報のデザインによって新たに考案する能力の獲得を目指す

ビジュアルアート科〔VA科〕＜1年制／2年制＞

アートワークを学ぶ

美術表現による幅広い芸術作品を造形する能力の獲得を目指す

研究科〔PG科〕※2019年4月1日付プロジェクトデザイン工科に名称変更

クリエイティブワークを追究する

クリエイティブワークを社会に向けて実践する能力の獲得を目指す

(6)法人の沿革

- 1946.04 村田美術研究所を長野市に開設
- 1953 村田絵画研究所を併設
- 1964 長野市北石堂町にアトリエを新設 ※ここまでは、個人立絵画教室
- 1970.10 長野県知事より私立村田美術学校認可※公認の各種学校
学校長に村田武次就任 設置学科 造形科 絵画コース（2年制）/デザインコース（2年制）
建学の精神 一人間に生きる歓喜（よろこび）と希望をもたせ続けてきたのは音楽と美術の力である—
目 標 全人的な教養を基礎として、その上に築かれた専門的な知識と高度な技術を実生活に正しく
生かすことが目標である。
目 的 都会では得られない、大自然を背景としたスケールの大きな芸術の発祥の地としたいため
あり、未来美術科として治世と完成、精神力の優れた人材を創り出す理想を持っている。
- 1976.04 専修学校文化教養専門課程認可※専修学校専門課程として認可を受けました。
- 1978.04 長野市岡田町に校舎新築移転 長野市岡田町8-1-9
- 1978.09 長野美術専門学校に名称変更
- 1981.09 造形科にレタリング・写植コース（1年制）を設置
- 1988.03 造形科レタリング・写植コース（1年制）を廃止
- 1991.12 創立20周年記念事業
- 1995.10 学校法人村田学園認可※個人立から法人立へ、公の学校としての位置付けを強くしました。
初代法人理事長に村田武次就任
- 1997.09 長野市中御所1丁目10-10に新校舎新築移転
- 1998.04 学科構成等変更
造形科へ建築デザインコース（2年制）を設置
研究科（1年制）設置
- 1999.03 別館「蔵」の増設
建築デザインコースは国家資格に係る学科であり、その設置条件を満たすために、別教室を増設しました。
- 2000.04 学校長に村田道子就任
- 2001.04 創立30周年記念事業
- 2002.03 学科構成等変更
造形科建築デザインコース（2年制）を廃止、
造形科デザインコース（2年制）、絵画コース（2年制）を統合し、造形科（2年制）のみとする。
- 2004.04 学校長に村田陽就任
- 2004.04 学科構成等変更
研究科（1年制）を2年制に変更
造形科をビジュアルデザインコース（2年制）、ビジュアルデザイン特修コース（2年制）に分ける。京都
造形芸術大学通信教育部の併修制度を開始（特修コース）
※特修コースは主に進学を考える学生のためのコースとして設置された。
- 2005.10 法人理事長に村田陽就任
- 2005.10 学校長に小林勝彦就任

理念体系を樹立

- －信条－ クリエイティブの哲学を社会形成の要である
- －教育理念－ 創造力の育みを以って豊かな社会形成に資する
- －教育目標－ 創造性を社会価値に昇華できるクリエイターの育成
- －使命－ 人が伸びるプロセスの提供

2007.04 学科構成等変更

造形科 ビジュアルデザインコース（2年制）及びビジュアルデザイン特修コース（2年制）2年次に映像授業開設※美術・デザイン分野において、映像を使った表現教育も必須となっていることから、映像授業を開設しました。

2007.04 学科構成等変更

造形科 アート・コミュニケーション科（1年制）開設

2007.07 法人理事長に小林勝彦就任

2009.04 学科構成等変更

造形科 ビジュアルデザインコース（2年制）及びビジュアルデザイン特修コース（2年制）に Web デザイン専攻・映像デザイン専攻を新設

アート・コミュニケーション科に2年制コースを設置したため、アート・コミュニケーション科1年制コース・2年制コースとなる

2010.04 学科構成等変更

造形科 ビジュアルデザインコース（2年制）とビジュアルデザイン特修コース（2年制）を統合し、ビジュアルデザイン科（2年制）とする

2013.04 全学科単位制へ移行

美専修学ラインの設定（4つのテクニカルライン）

美専では専門性ごとの科目群を「テクニカルライン」と呼び、4つのラインが学生の将来につながります。デザインライン／ドローイングライン／アートライン／映像ライン

2014.03 ビジュアルデザイン科2年制 職業実践専門課程認定

実践的な職業教育を高い質で確保している学校として「職業実践専門課程」法制化初年度に認定されました。

2015.04 学科構成等変更

ビジュアルデザイン科3年制を開設

よって、ビジュアルデザイン科はビジュアルデザイン科2年制と名称変更となる。

2016.04 法人名称を「学校法人 クリエイティブ A」に変更、C I（キャンパスアイデンティティ）の確立へ

2016.04 学科構成等変更

美専修学ラインの充実を図りました。

5つのテクニカルライン

アニメキャラクターライン（新規追加）／デザインライン／イラストレーションライン（ライン名変更）／ファインアートライン（ライン名変更）／映像ライン

2016.12 新キャンパス建設着工

2017.08 新キャンパス竣工

2 事業の概要

(1)当該年度の事業の概要

平成 29 年度の新キャンパスの設置は、単に目新しい校舎を築くことではなく、本校がこれまで行なって来た教育事業の価値を最大限に発揮するためであり、その価値をこれまでよりひと回り大きく発展させる目標に向かうものであります。その結果本年度は過去最多の学生数が在籍となりました。

本年度の課題は、新キャンパスの環境を基盤として多くの学生に対し、本校が長年培った創造性教育を施していくことでした。単位制をとる学校としてとかく科目の履修完遂に重きがおかれ、個々の学生の状況が見落とされがちなることもあります。各学生の修学目標を全うできるよう、学生によりそう形で支援をするための教員を増員しました。設備面では、不足していた映像系科目の設備を増やし授業内容の充実を計りました。

又、教育力を高める目的で新たなクリエイティブ分野（ウェブデザイン・プログラミング・IT オペレーション、マーケティング・クリエイティブビジネス等）への科目設置を検討した結果、新たに「マーケティング」分野科目を設置し、本分野の権威を講師として迎えました。更には、クリエイティブ分野に欠かせない「コピーライティング」の科目を新たに設置する等、徐々に目的を推進することができており、今後も科目設置の検討を進めてまいります。

目標としていた広報活動の充実については、本校が既に持つ、授業内容・社会学連携活動・学生作品・卒業生の活躍等資産を、いかに広報できるかが重要との方向性を見出し、現在効果的な方策に向け、2019 年度にはサテライトキャンパスをその拠点として、更なる効果拡大方針を固めているところです。

(2)主な事業の目的・計画・計画の進捗状況

1) 教育課程

各学科の修業年限、卒業に必要な単位数及び時間数は下表のとおりです。

課 程	学 科 (単位制)	修業 年限	卒業に必要な単 位数及び時間数		称号
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科 2 年制	2 年	6 2	1700	専門士
文化教養専門課程	ビジュアルデザイン科 3 年制	3 年	9 3	2550	専門士
	ビジュアルアート科 1 年制	1 年	3 1	850	
	ビジュアルアート科 2 年制	2 年	6 2	1700	専門士
	研究科	2 年	6 2	1700	専門士

本校の教育課程は、クリエイティブ分野の 5 つの専門性を「デザイン」「映像」「イラストレーション」「ファインアート」「アニメキャラクター」に大別し、将来につながる学びの「ライン」として設定しています。

各「ライン」には、基礎を修得する「ベーシック」、オリジナリティを獲得する「パーソナル」、そして実践的な「プロフェッショナル」の 3 つのキャリアステージがそれぞれ設定されており、各ステージに応じて科目が構成されています。ビジュアルデザイン科には「デザイン」「映像」「イラストレーション」ラインが、ビジュアルアート科には「アニメキャラクター」「ファインアート」ラインの科目が、主に担当されています。

又、年間の内 4 月～6 月を「基礎履修期／さまざまな専門分野基礎的な科目を履修することができる」、7 月～10 月をゼミ期／それぞれの専門性に特化したライン別のゼミを展開、11 月～3 月を「総合制作期／年間の学びのま

とめの期間、専門ラインごとの集大成となる制作に取り組み、年度末には総合制作展（美専展）で一般公開します」とし。総合制作を目指した学びの流れとしています。

教育課程編成委員会において、本年度は教科内におけるさらなる基礎力の強化と内容の洗練化方針が提起され、方策として、1年次における選択教科の拡充を狙った2つの映像教科の新設及び、4つの科目名称・内容の洗練化が行われました。

2) 連携学習

当年度の協定を交して行った企業等との連携学習は下表のとおりです。

科目名	学習内容・テーマ	連携先企業・団体※敬称略	形態	実施日
キャリアデザインA	インターンシップ	クリエイティブファクト株式会社	企業内研修	平成30年7月～8月
キャリアデザインB	現場・実務の学び	有限会社サンライズ	講師派遣	平成30年10月12日
インターンシップVD	インターンシップ	株式会社TAF	企業内研修	平成30年7月～8月
インターンシップPGA	インターンシップ	株式会社サン・カラープロセス	企業内研修	平成30年7月～8月
色彩	色について学ぶ	長野県デザイン振興協会	講師派遣	平成30年10月18日
DTP理論	カラーマネジメント	長野県デザイン振興協会	講師派遣	平成30年10月18日
ムービーメイキング	科目担当授業	有限会社アドフォート・トリム	講師派遣	平成30年4月～ 6月・9月～11月
写真表現	媒体を利用したの商品販売方法	ダンクセキ株式会社	講師派遣	平成30年5月18日
6次デザイン	科目担当授業	長野県デザイン振興協会	講師派遣	平成30年4月～6月
	地域観光における媒体利用の実習(観光PRツール制作)道の駅しなのPRキャラクター	信濃町ふるさと振興協会	実習	
キャリアアップ実習	長期インターンシップ	株式会社日本デザインセンター	企業内研修	本年度研修者無し
ライン別ゼミ	人権啓発ポスターデザイン	長野県県民文化部人権・男女共同参画課	講師派遣	平成30年7月～ 10月
	人権学習(制作テーマ)	長野県県民文化部人権・男女共同参画課	講師派遣	
	道の駅しなのPRキャラクター	信濃町ふるさと振興協会	実習	
		長野県デザイン振興協会	講師派遣	
		株式会社トドロキデザイン	実習	
Foodiconプロジェクト	NPO法人 長野国際友好協会	実習		
映像表現	科目担当授業	株式会社ズズザウルス	講師派遣	平成30年5月～ 10月

3) インターンシップ

当年度設定したインターンシップの受け入れ先は下表のとおりです

受入先企業名（敬称略・順不同）	
有限会社アドフォート・トリム	カシヨ株式会社
クリエイティブファクト株式会社	株式会社ツチクラ住建
株式会社ながのアド・ビューロ	株式会社りんごの木
株式会社日商印刷	日本レクシー株式会社
豊野温泉りんごの湯	藤原印刷株式会社
株式会社サン・カラープロセス	株式会社メディネット長野支社
有限会社イデア	株式会社アド・イシグロ
株式会社ヴィーヴォ	株式会社JBN
株式会社Black Pepper	株式会社キティック
株式会社 studio Hi-Bush	有限会社アイシス
有限会社スタジオ・スペーススー	株式会社ズズサウルス
株式会社TAF	

4) 各種検定

当年度設定した検定の実施結果は下表のとおりです。

月	日	曜日	種 類	志願者	受験者	合格者（率）	全国平均 合格率
6	9	土	レタリング検定 3 級	49	45	11 (24.4%)	65.5%
6	9	土	レタリング検定 2 級	1	1	0 (0%)	65.5%
7	1	日	ビジネス能力検定 3 級	44	44	39 (88.6%)	87.1%
7	1	日	ビジネス能力検定 2 級	1	1	1 (100%)	83.3%
9	9	日	色彩士検定 3 級	45	38	19 (50.0%)	80.9%
11	10	土	日本語検定 3 級	38	38	認定 18 (47.4%)	48.0%
						準認定 10 (26.3%)	25.8%
10	21	土	Illustrator クリエイター能力認定試験	40	40	25 (62.5%)	68.4%
10	21	土	Photoshop クリエイター能力認定試験	40	40	14 (35.0%)	70.3%
11	12	日	美術検定 3 級	12	12	0 (0%)	78.0%

5) クリエイティブプロジェクト

①イラコンながの！2018 当該年度は休止しました。

②クリエイティブフラッグプロジェクト

本年度の主な使用は 2018 年 7 月「表参道夏祭り」

年度内 長野美術専門学校敷地周辺（オープンキャンパス開催時）

③未来のこどもラボ協働 ※別紙報告書参照

④美専展 2019 ※別紙資料参照

(3)入学志願者数・受験者数・合格者数等の入学試験に関する状況

月	日	曜日	試験種別	科	志願者数	受験者数	2019年度入学者数
7	28	土	AO選考 学習体験1	VD科(2年制)	8	8	7
				VD科(3年制)	1	1	1
				VA科(1年制)	0	0	0
				VA科(2年制)	2	2	2
8	25	土	AO選考 学習体験1	VD科(2年制)	3	3	3
				VD科(3年制)	1	1	1
				VA科(1年制)	0	0	0
				VA科(2年制)	3	3	3
10	27	土	前期自己推薦選考	VD科(2年制)	5	5	5
				VD科(3年制)	0	0	0
				VA科(1年制)	0	0	0
				VA科(2年制)	3	3	3
11	24	土	中期自己推薦選考	VD科(2年制)	1	1	0
				VD科(3年制)	1	1	1
				VA科(1年制)	0	0	0
				VA科(2年制)	1	1	1
12	22	土	後期自己推薦選考	VD科(2年制)	2	2	2
				VD科(3年制)	0	0	0
				VA科(1年制)	0	0	0
				VA科(2年制)	0	0	0
1	26	土	第1回一般選考	VD科(2年制)	2	2	2
				VD科(3年制)	0	0	0
				VA科(1年制)	0	0	0
				VA科(2年制)	0	0	0
3	13	水	第2回一般選考	VD科(2年制)	3	3	3
				VD科(3年制)	1	1	1
				VA科(1年制)	0	0	0
				VA科(2年制)	1	1	1
4	1	月	第3回一般選考	VD科(2年制)	1	1	1
				VD科(3年制)	0	0	0
				VA科(1年制)	0	0	0
				VA科(2年制)	0	0	0
合 計				VD科(2年制)	25	25	23
				VD科(3年制)	4	4	4
				VA科(1年制)	0	0	0

				VA科(2年制)	10	10	10
				合計	39	39	37
月	日	曜日	試験種別	科	志願者数	受験者数	2019年度入学者数
11	24	土	前期選考	プロジェクトデザイン工科	0	0	0
3	13	水	中期選考	プロジェクトデザイン工科	0	0	0
4	1	月	後期選考	プロジェクトデザイン工科	0	0	0
合計					0	0	0
総合計					39	39	37

(単位：人)

(4)卒業生数・修了者数・称号授与数等の状況

課程	学科名	4月開始時	休学	退学	卒業	専門士称号授与	3月末 転学科	3月末 在籍者
文化教養専門課程 (職業実践専門課程)	ビジュアルデザイン科2年制	68	1	1	36	36	+1 -2	30
文化教養専門課程	ビジュアルデザイン科3年制	1	0	0	1	0	0	0
	ビジュアルアート科1年制	1	0	0	0	0	-1	0
	ビジュアルアート科2年制	23	2	4	8	8	+3 -1	13
	研究科	1	0	0	1	1	0	0
合計		94	3	5	46	46		43

(単位：人)

(5)学生の就職・進学状況

卒業生46名のうち、就職を希望した者は34名で、その内就職した者は31名でした。希望者に対する就職率は91.2%です。又、進学をしたものは1名でした。

科	卒業生数	就職希望者数	内就職者数	進学希望者数	内進学者数
ビジュアルデザイン科2年制	36	28	26	1	1
ビジュアルデザイン科3年制	1	1	1	0	0
ビジュアルアート科1年制	0	0	0	0	0
ビジュアルアート科2年制	8	4	3	0	0
研究科	1	1	1	0	0
合計	46	34	31	1	1
就職率			91.2%		

(単位：人)

(6)基幹委員会運営

1) 自己点検・評価委員会

教職員・講師及び卒業生へのアンケートを実施し、その分析を踏まえ平成 29 年度における自己点検評価を行いました。

役職名	氏名	所属・役職	開催日
委員長	小林 勝彦	校長	平成 30 年 9 月 19 日
委員	小林 理砂	総務長	
委員	松本 直樹	教務長	

2) 教育課程編成委員会

専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等との連携による、専門分野の動向や必要となる知識・技術・技能について、本委員会にて把握・分析し、授業科目の設置や授業方法の改善策を策定することで、本校の専門課程における実践的な職業教育の教育課程の編成に反映させることを目的としています。

役職名	氏名	選任区分	所属	開催日
		委員会規則 第 4 条		
委員長	小林 勝彦	4 号	長野美術専門学校 学校長	平成 30 年 10 月 4 日 平成 31 年 3 月 7 日
委員	辻 圭介	1 号	長野県デザイン振興協会 事務局長	
委員	轟 久志	1 号	長野県デザイン振興協会 デザインPR 部会長	
委員	大久保 清一	3 号	有限会社サンライズ プリンティングディレクター	
委員	戸田 良久	3 号	有限会社長野デザインセンター	
委員	寺島 克己	3 号	クリエイティブファクト株式会社副社長	
委員	本藤 佳代子	5 号	長野美術専門学校 研究科学科長	
委員	松本 直樹	5 号	長野美術専門学校 教務長	
委員	塚田 佳子	5 号	長野美術専門学校 キャリア指導主事	

3) 学校関係者評価委員会

本校と連携授業等で関係している企業や学識経験者、本校学生保護者、卒業生から選ばれた委員による学校関係者評価委員会を設置し、本校の自己点検・評価の結果が適切かどうか、またその結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか等の評価を行い、今後の学校運営改善のための参考としていきます。

役職名	氏名	選任区分	所 属	開催日
		委員会規則 第4条		
委員長	松 井 秀 夫	1号	NPO法人夢のデザイン塾 副理事長	平成30年11月8日
委 員	大久保 清 一	2号	有限会社サンライズ プリンティングディレクター	
委 員	基 井 照 明	2号	株式会社日商印刷 専務取締役	
委 員	丸 田 純 子	4号	平成30年度在校生保護者	
委 員	大日方 あゆみ	5号	平成14年度卒業生	

(7)教職員研修

本校教職員研修規則に定める教員研修は、専攻分野の専門性の学びについて、学生の就職先などの進路への通用性や分野動向への対応性、及び職業人として求められる人間力を教員自身が調べ、学び、企業等の人材需要に応じていくために企業等との連携により実践性を踏まえて行なう。また職業人育成のための教育的知識・指導力を高める目的で、本校の教育活動に適した教育理論や技術の研修を行なう。研修の取り組みにあたっては、教科運営を行なう立場から教務がこれらの目的を賄う成果をあげるため、教科会、主任会、職員会等に働きかけ学校全体としての活動となるよう先導するものとしています。

目的	研修内容・テーマ	研修先又は講師派遣先	形態	研修日
指導力 向上	「適切な指導は適切なデータ管理から」～学修支援のための正しい判断、エビデンスを引き出すための文書管理法を学ぶ～	富士ゼロックス長野株式会社 講師：岩崎弘明 氏	講師招聘	平成31年3月8日
	「備えて、学生を守る」～富士ゼロックス社の災害対策ガイドラインから、有事への備えの必要性を学ぶ～	富士ゼロックス長野株式会社 講師：岩崎弘明 氏	講師招聘	平成31年3月11日
	専修学校教職員研修会	主催：一般社団法人埼玉県専修学校各種学校協会	外部研修会参加	平成30年6月30日 平成30年7月14日 平成30年7月28日
	情報モラル教育指導者セミナー	主催：NTTラーニングシステムズ株式会社 平成30年度文部科学省委託「情報モラル教育推進事業」	外部研修会参加	平成30年12月17日
技術力 向上	マーケティング分野における4P (product, promotion, place, price) について	フレックスジャパン株式会社	連携先企業内研修	平成31年1月17日 平成31年1月18日

(8)付帯事業

本校に設置する付帯事業については以下のとおりです。

1) ながのこども美術学校

小学生の自我の確立へ向かう発達期に合わせ、バランスのとれた人間性の育成のために、美術による教育「美育」の活動を下表により行いました。又、この講座は、本校の教科科目「美術学習論特講」を選択した学生へ指導法を学ぶ授業としても設定されています。

本年度は、講師の調整ができず、幼児クラスは休講となりました。

クラス	開講時間	開講数/月	入校金 入校時(1家庭)	受講料/月	担当講師 (敬称略)	受講者数 (年間の べ) (人)
幼児(3~6才)	10:00~11:30	2回	5,000円	3,640円	休講	0
小学校低学年 (1~3年生)	14:00~16:00	2回	5,000円	4,360円	小林 勝彦 鴨林 朱実 吉田 昌司	8
小学校高学年 (4~6年生)	14:00~16:00	3回	5,000円	7,290円		6

2) ながのクリエイティブルーム

平成29年10月1日付けで、クラーク記念国際高等学校の技能連携校(国際高等学院長野校)のサポート室として中学校卒業者を対象として設置しました。本年度の在籍者は2名に止まり、広報活動の充実による学生数の増加を今後の課題としています。

3) 別科

高等学校卒業生(高校卒業程度認定試験合格者)を対象とし、科目履修を体系的に学ぶために平成28年度より設置しています。当年度の在籍者は0名でした。

(9)地域貢献

1) 学べるキャリア出張講座(長野県専修学校各種学校連合会主催)

長野県専修学校各種学校連合会が専修学校・各種学校の職業教育についての経験やノウハウ、人材を生かし、小学生・中学生・高校生・一般社会人を対象に、キャリア教育・生涯学習の一端を担い、その向上に資することを目的として設置しています。本校は当年度下表のように、協力致しました。

月日	講座テーマ	担当講師	出張先
平成30年5月31日(木)	美術の基本からのデザイン体験	小林駿 松本直樹	第一学院高等学校長野キャンパス
平成30年9月22日(土)	美術の基本からのデザイン体験	樋口杏 松本直樹	第一学院高等学校長野キャンパス

2) いきいき生涯学習

長野市専修学校各種学校協会が主催する「いきいき生涯学習」に、当年度は下表のように協力致しました。

月日	講座テーマ	参加者数	担当講師
平成30年9月22日(土)	ギフトラッピング講座	7名	横山美智子
平成30年10月6日(土)	ギフトラッピング講座	3名	横山美智子
平成31年1月26日(土)	木のリボンでコサージュ作り	6名	相澤徳行
平成31年2月2日(土)	木のリボンでコサージュ作り	2名	相澤徳行

(10) 広報・学生募集活動

2019年度学生募集に向けて、以下のように活動致しました。

月日	活動内容	備考
4月中旬	入学調査分析 昨年度学校案内希望者(平成31年度以降対象学年)へ学校案内を送付	株式会社応用社会心理学研究所
4月中旬	高校進路指導主事宛学校案内を送付 高校美術担当教諭宛学校案内を送付	
	県内企業へ学校案内を送付(就職支援用)	北信・中信・東信・南信
年間	<ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問 ・オープンキャンパス・体験授業の運営及び案内状等の制作 ・進学支援業者の企画による、会場形式説明会・高校内進路説明会等への参加及び広報誌媒体を中心として活動を行う ・学校案内・募集要項作成及び活用 ・ホームページ運用 	高校進路指導・美術担当教諭 毎月開催 対象者・高校宛DM送付

(11) 今後の課題

本学の教育内容の多様化方針によりデザイン系統の上位学科においては、造形性のみならず、商業性、工学性を有する科目設置を検討し、現行学科の教育課程の拡充・高度化を目指していきたくと考えています。又、これからのリカレント教育の必要に合わせ、社会人の学び直しを促進する予定です。よって、上級学科の位置付けの研究科の入学条件を拡幅し、研究性と即応性をあわせ持つ学科へ進展させ、学科名称もプロジェクトデザイン工科へと変更します。又、キャンパス機能の拡大により、現行の教務機能を補いつつ本来的な広報を実践し、新たな学種開発も視野に入れた構想の拠点とする目的でサテライトキャンパスを設置し、活用を推進していきます。

教育行政政策対応では、ビジュアルデザイン科3年制の職業実践専門課程の申請を行います。又、高等教育の負担軽減政策による、授業料減免と給付型奨学金の措置の対象機関としての要件を満たすべく、客観的指標に基づき評価設定されたシラバスの作成を準備するなど、2020年度からの受給を目指し申請を行います。更に労働行政政策対応としては、ビジュアルデザイン科2年制への専門実践教育給付金制度導入に向けて検討していく予定です。

3 財務の概要

(1)財務概要の経年比較

年度	正味財産額（円）
平成 26 年度	157,919,855
平成 27 年度	152,854,423
平成 28 年度	82,791,579
平成 29 年度	97,023,021
平成 30 年度	111,777,751

学生数が増加したことにより収入が増え、予算額より支出を抑えることができ、現預金が増えたことにより正味財産が増加しました。

(2)当該年度の決算の概要

平成 30 年度の決算の特徴としては、予算より若干の上方修正となりました。学生数の増加により、学生生徒納付金収入は前年度より 1300 万円増となりました。

平成 29 年新キャンパス建設にあたり、長野市の「私立学校等振興補助金」が昨年に続き 300 万円（本年度含め 3 年間に 1000 万円の補助金）交付されました。

支出については、人件費は前年度より 500 万円程の増額となっていますが、これは学生支援に係る人員を増加したため、概ね予算額の通りです。教育研究費において新キャンパス建築後に必要な消耗品、教材費等が全体的に増加しています。減少の要因としては、広告宣伝費において、各広告制作にかかるデザイン料を抑えたためです。

予算に対する達成率で示しますと、収入では教育活動収入合計 99.28%、教育活動資金収支差額 93.24%、経常収支差額 90.49%。支出についての達成率は人件費 95.55%、教育研究費 80.23%、管理経費 110.28%となり、経常収支で達成率 90%以上の結果は、ほぼ予算通りの結果と言えます。本年度は収支のバランスもとれており、次年度繰越資金の達成率が 103.55%であるため、資金繰りに関しても余裕が来ています。

(3)主な財務比率

事業活動収支計算書において、

教育活動収支収入の内訳は、学生生徒納付金収入は全体の 94.34%、寄附金が 0.5%、補助金が 4.33%となります。

教育活動収支支出の内訳は、人件費が全体の 50.59%、教育研究費が 12.50%、管理経費が 36.90%となります。

教育活動外収支の内訳は、収入では受取利息が 100%、支出では借入利息が 100%となっています。

(4)主な施設設備の整備状況

平成 29 年度において申請した、文部科学省が交付する「私立大学等研究設備整備費等補助金及び私立学校施設整備費補助金」により、以下の 2 種類の設備の補助金を受けることができました。学生の修学に必須の設備として管理維持してまいります。

①クリエイティブ教育・研究に係るデータの校内全域情報処理システム整備事業

本校の授業において、ホストPCとクライアントPCとのデータ共有及びオペレーションシステムによる学習方法をとるものが多くあります。又、制作において、無線LANを介したプリントサーバーと出力機の基本的操作を通しポストスクリプトや色彩調整などの概念を学びます。又、出力機の機能の幅を利用しDTPデザインにおける表現力を養います。

キャンパス建て替え、及び学生数の増加によるサーバー容量増大に伴う出力データ量と、その質の向上に対応するため、加えて、社会における実務環境に準じた、学生への学習環境を提供するため、このシステムを導入しました。

②複数環境一斉学習のための情報配信型投影システム整備事業

本校での学科や年次を超えた合同授業では、センターホール（講堂）及び複数教室を同時使用することがあります。その際、プロジェクタを用い、スクリーンに投影し、さらにサブディスプレイやサブプロジェクターを用いて情報を共有することが必要になります。又、それぞれの授業の規模に応じ、可変性的な当該システムを用いて、学生による発表やプレゼンテーション等を行わせることも可能となります。講義や演習、能動的なグループワーク、プレゼンテーションの実演など形式の異なる授業に、フレキシブルに対応できる環境を提供するために、当システムを導入しました。

本年度は、前年度において整えられた環境の維持管理が主となり、新たな設備及び構築物への支出は学生用イス等の補充、映像系教具及び図書の補充に止めましたが、広報活動の充実をはかる方針もあり、長年の懸案であった営業車を購入しました。